

山武市商工会では、下記の内容により令和3年12月と令和4年12月の状況の変化について地域経済動向調査を行った。

1. 調査対象

5業種（卸・小売/サービス/建設/飲食/製造）の各20社。

2. 調査方法

ヒアリングおよび決算書比較によるアンケート記入
（調査については山武市商工会の指導員が実施）

3. 調査項目

【質問1】 下記15項目の前年と比較（令和3年12月とR4年12月）しての状況（増加/不変/減少/該当なし）

- ① 売上高②客単価③客数④商品等の価格転嫁⑤商品仕入額⑥商品仕入単価
- ⑦商品在庫数量 ⑧従業員⑨求人状況 ⑩外部人材 ⑪借入金利 ⑫資金繰り
- ⑬長期資金借入難度 ⑭短期資金借入難度（含 手形割引）
- ⑮業況

【質問2】

設備投資を実施したかとその内容
投資の内容は以下8項目から選択

- ① 土地②店舗③販売設備④車両・運搬具⑤付帯設備⑥OA機器⑦福利厚生施⑧その他

【質問3】

現在直面している経営上の問題点（1/2位）を下記17項目から選択

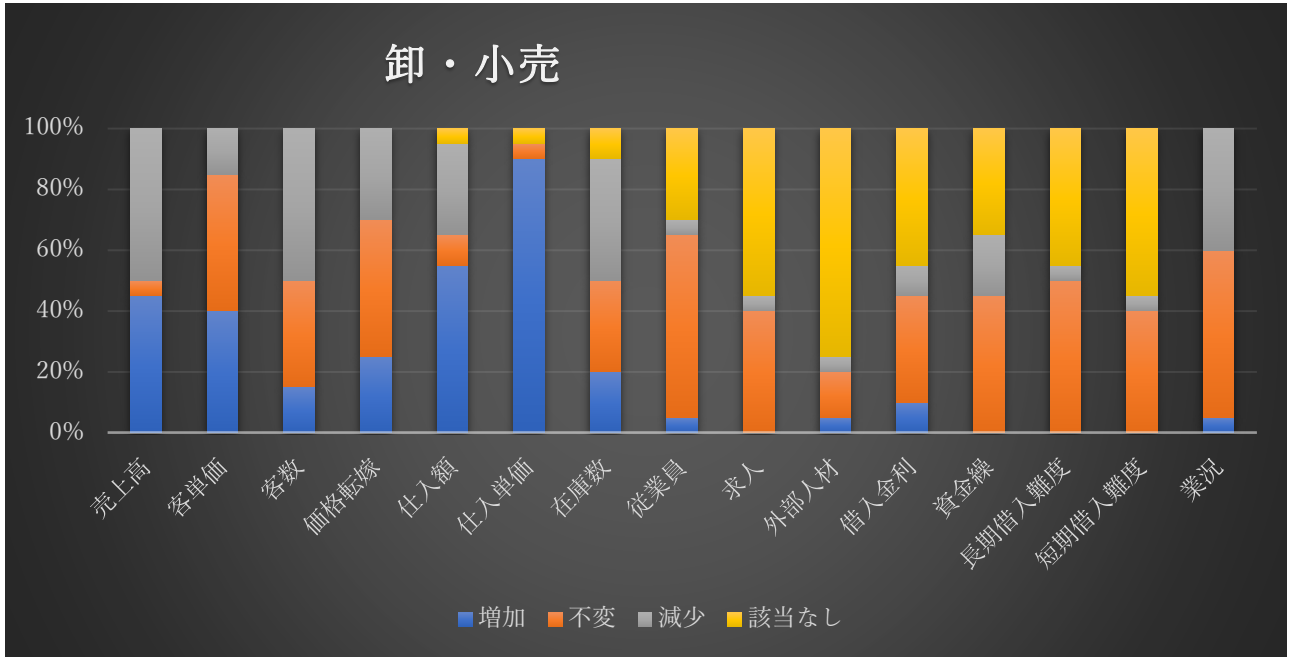
- ① 大型店・中型店の進出による競争の激化
- ② 販売単価の低下・上昇難
- ③ 同業者の進出
- ④ 消費者ニーズの変化への対応
- ⑤ 購買力の他地域への流出
- ⑥ 需要の停滞
- ⑦ 仕入単価の上昇
- ⑧ 商品在庫の過剰
- ⑨ 人件費の増加
- ⑩ 従業員の確保難
- ⑪ 金利負担の増加
- ⑫ 事業資金の借入難
- ⑬ 人件費以外の経費の増加
- ⑭ 代金回収の悪化
- ⑮ 店舗の狭隘・老朽化

⑩ 駐車場の確保難

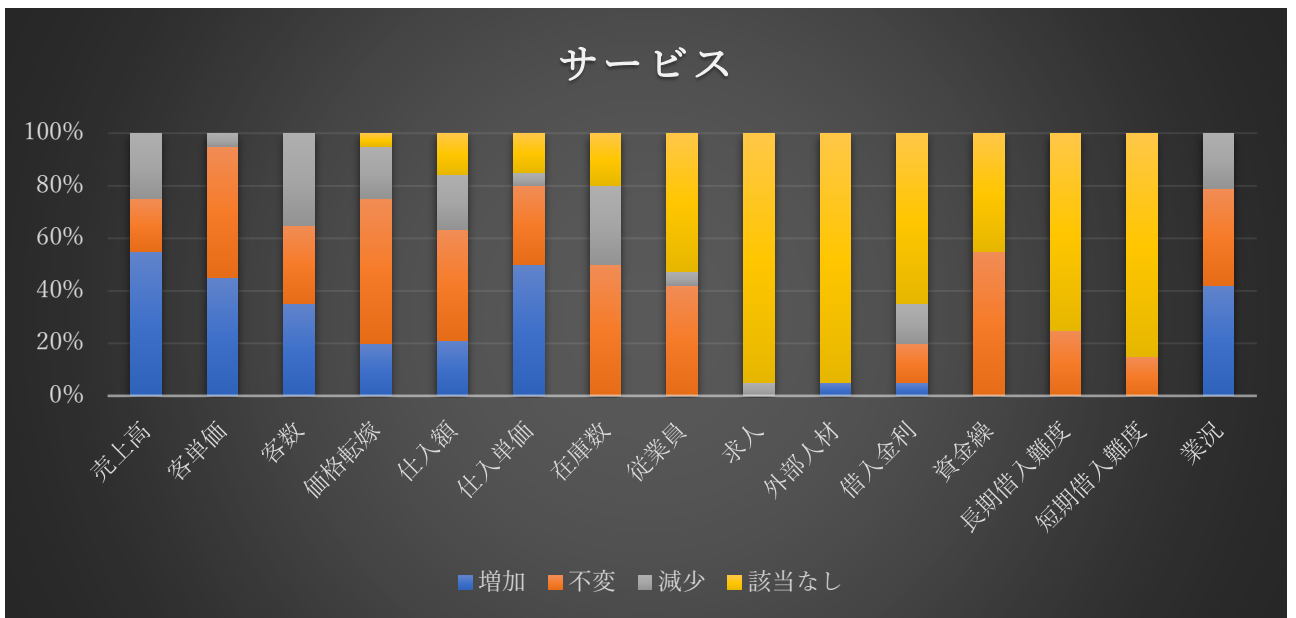
⑪ その他

4. 調査結果

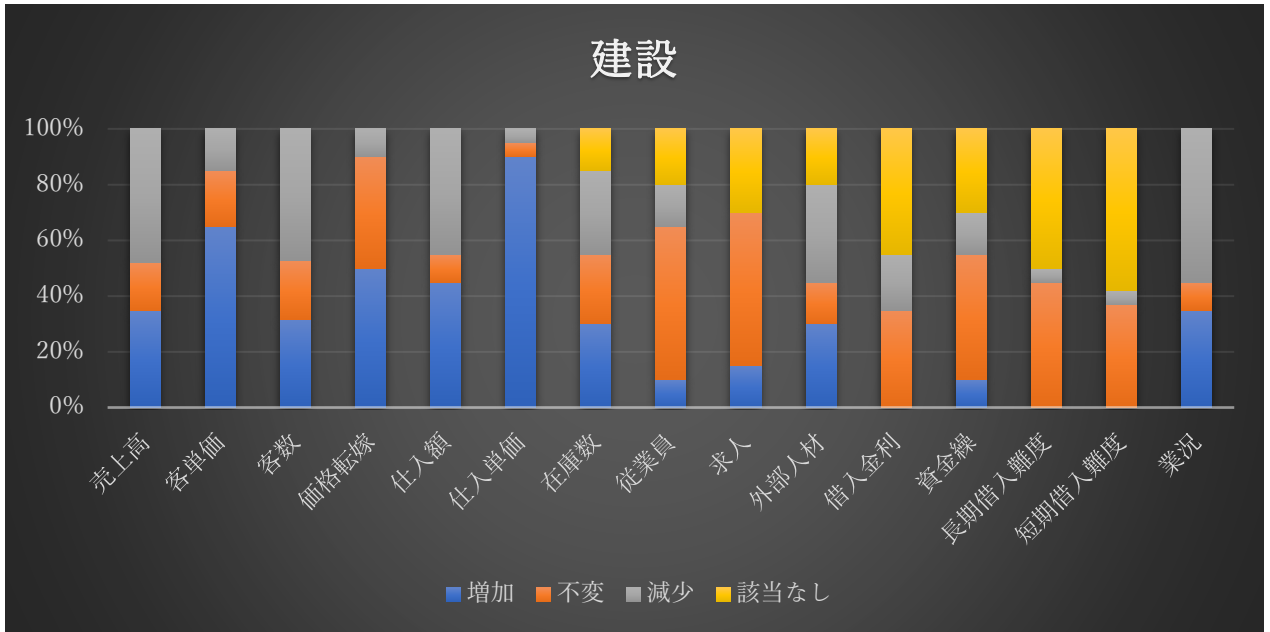
4. 1 状況全般に関する調査結果



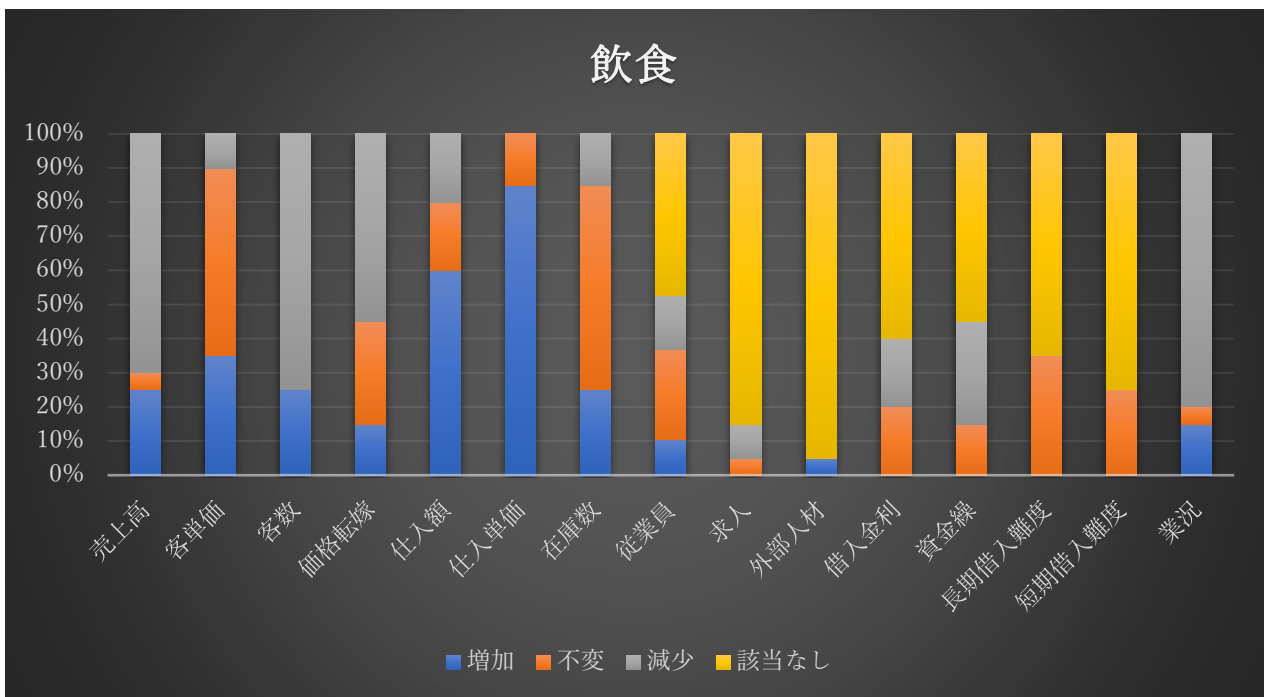
- 客単価は上がったが客数減で売上は増・減半々。不変は少なく、2 極化のきざし。
- 仕入単価の上昇が最も顕著。
- 業況は変わらない、もしくは若干悪化との回答が多い。



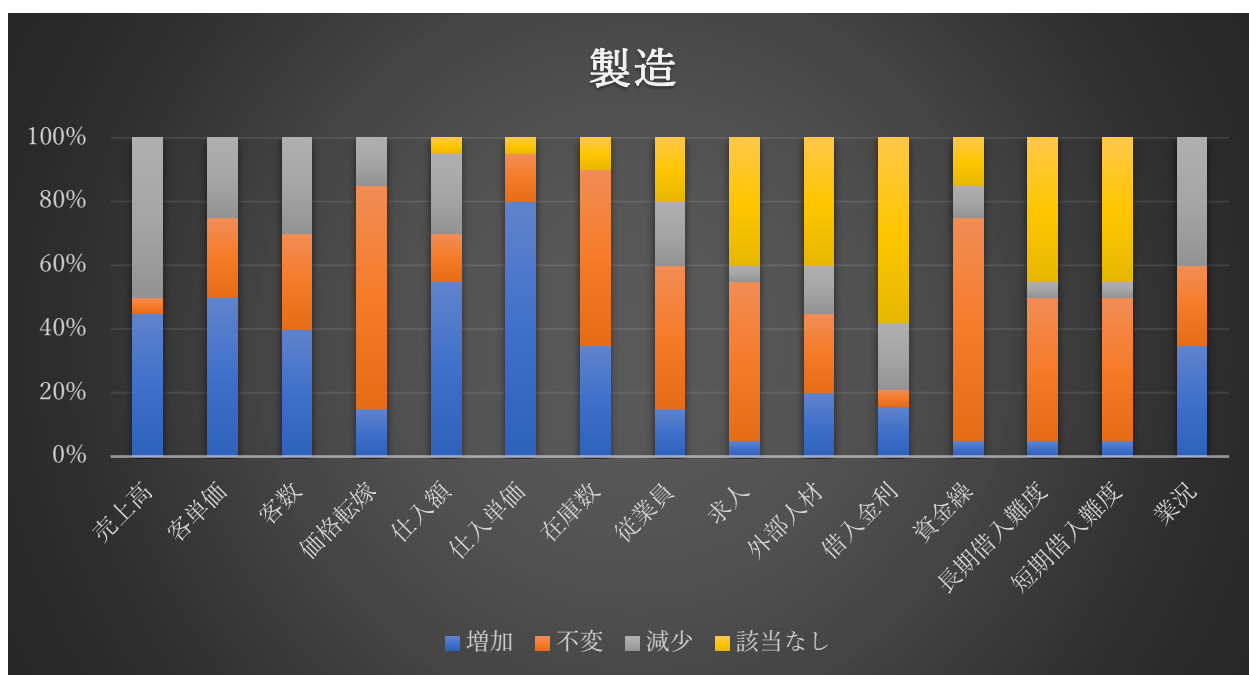
- 売上高は上昇傾向。客単価の上昇が寄与していると思われる。
- 業種の特徴として、仕入れ価格上昇の影響は受けづらい。
- 業況は良化もしくは維持との回答が多い。



- 客単価は上昇したが客数が下がり、売上高は減少。
- 他業種に比べて求人ニーズが高い傾向。
- 業況は良化しているとの回答よりも、悪化傾向との回答が若干多い。



- 客単価は上昇気味だが客数が大幅に落ち込み、売上高低下傾向顕著。
- 価格転嫁も弱い。
- 業況の悪化も他業種に比べて大きい。



○客単価は上昇。客数も拡大気味だが売上高は上昇、下降2極化。

○価格転嫁も弱い。

○業況は増加・不変・悪化3極化。

【コメント】

○卸・小売は仕入単価の上昇による影響が大きく、業況が厳しい。

○サービス業は外部調達比率が低いので、仕入れ単価の影響は比較的低い。コロナ明けで比較的需要も好転しつつあると思われる。

○建設業も仕入単価の上昇が大きく、需要が伸びていないが、それ以上に人員が不足気味であり、業況が厳しい。

○飲食は仕入単価が上がり、コロナで需要が回復しきれていないので、業況としては最も厳しい。

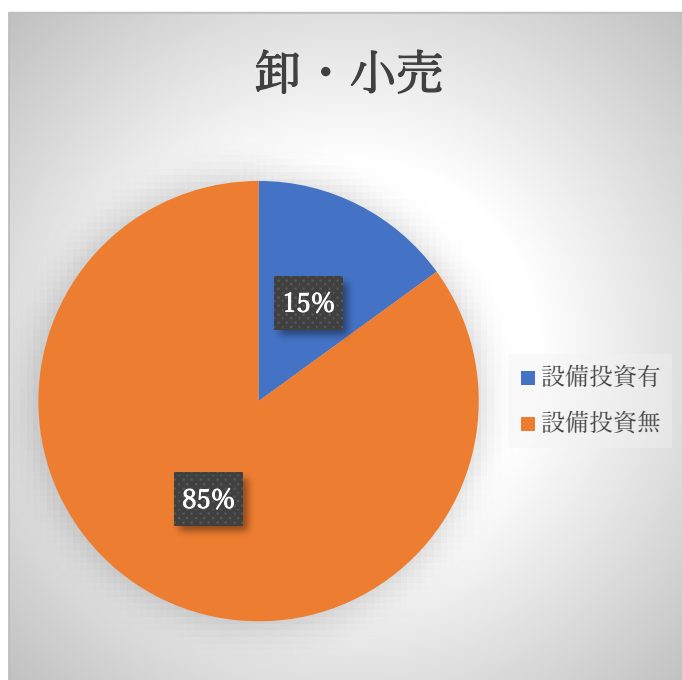
○製造は売上増と減が凡そ半々で、2極化の傾向がある。

【共通の傾向・課題】

○総じて、仕入れ単価の上昇が顕著であり、客単価の上昇が追い付いていない。

○特徴のあるサービス・商品で、客単価の上昇と価格転嫁を図っていく必要がある。

4. 2 設備投資



○投資は3事業者。

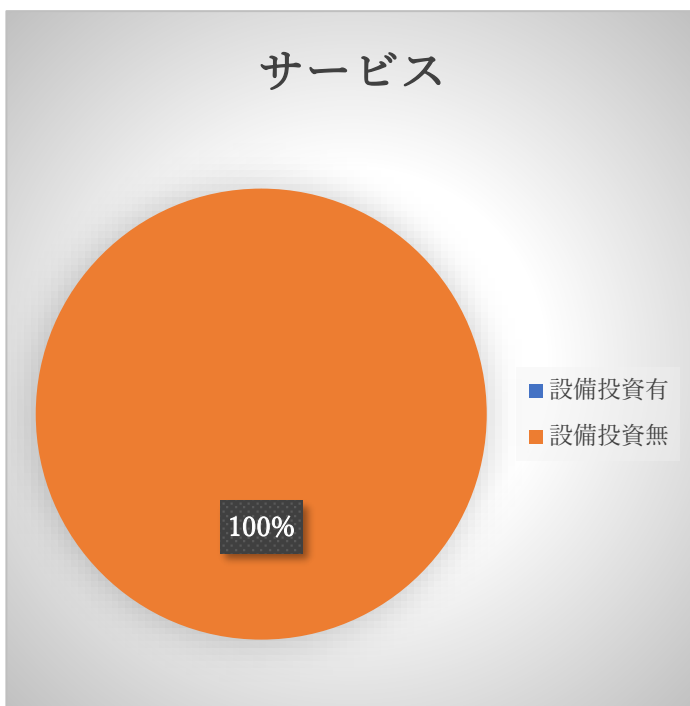
○投資内容

付帯設備 1

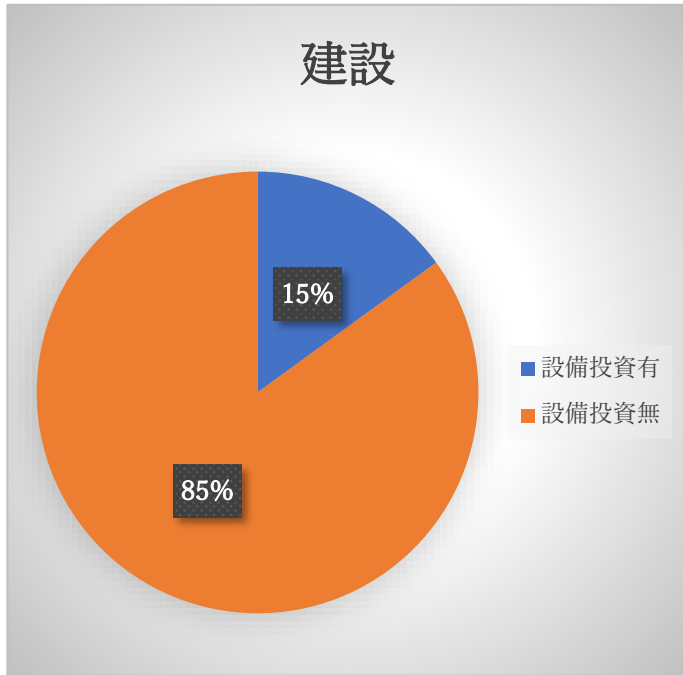
車両・運搬具 1

その他 2

(車両・運搬具とその他は同一事業者)



○設備投資は0件。



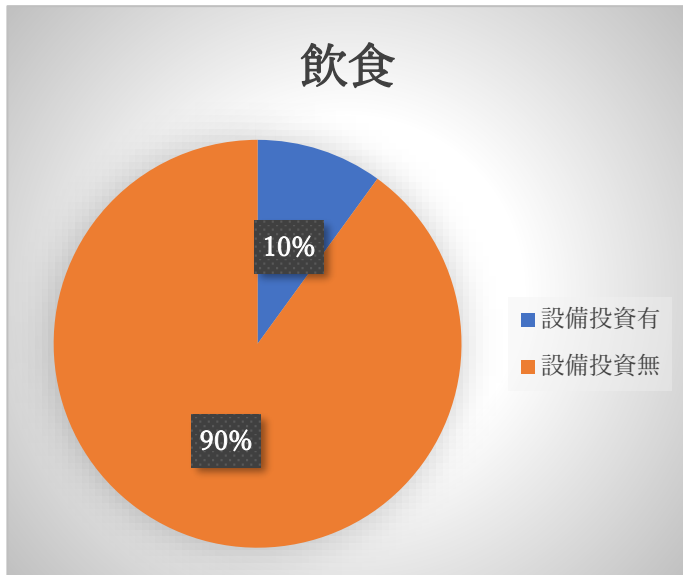
○投資は 3 事業者。

○投資内容

車両・運搬具 1

販売設備 1

その他 1

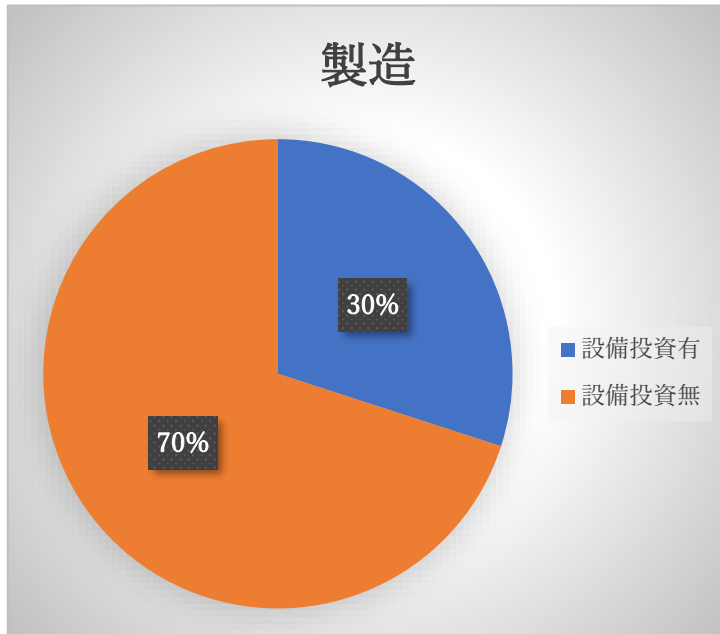


○投資は 2 事業者。

○投資内容

店舗 1

車両・運搬具 1



○投資は 6 事業者

○投資内容

車両・運搬具 4

付帯設備 1

土地・店舗 1

OA 機器 1

(車両・運搬 + 付帯設備 1)

【コメント】

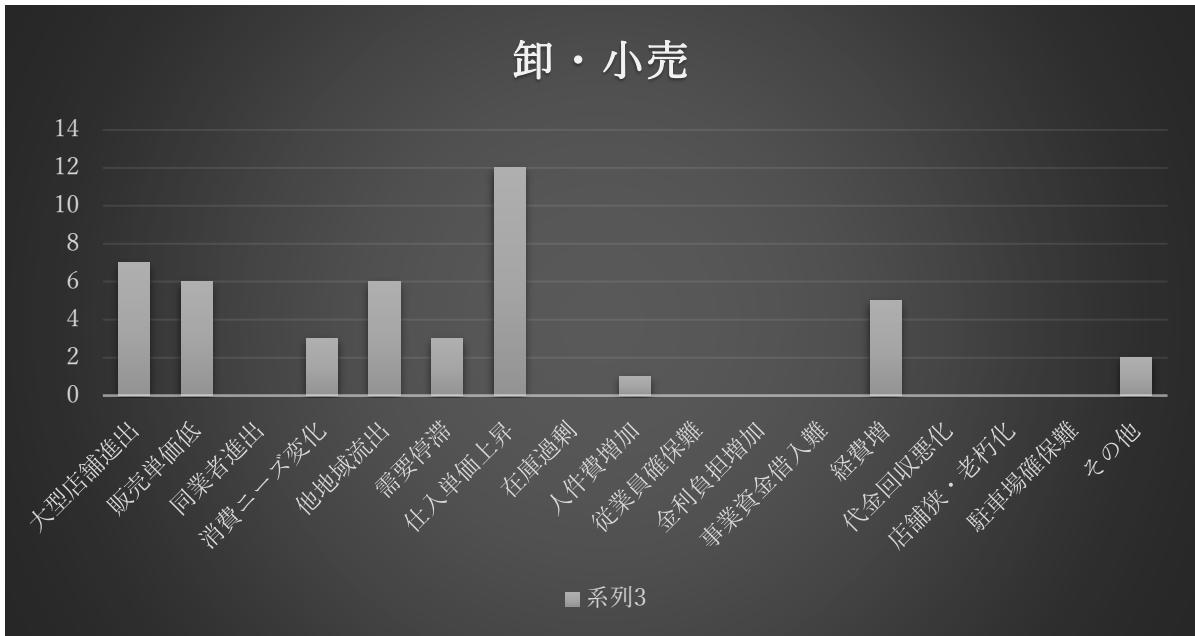
○設備投資は、総じて低調である。

○製造業が比較的投資件数が多いが、優遇制度の活用等が奏功している可能性がある。

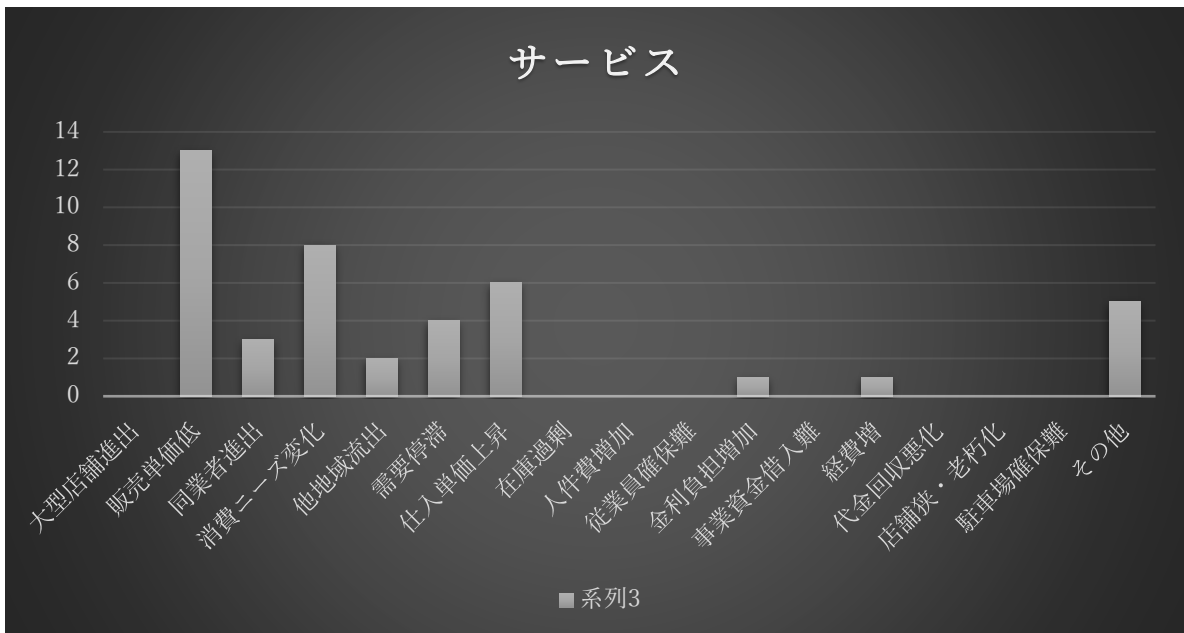
【共通の傾向・課題】

○DX、省人化等での生産性向上、新ニーズへの対応 等の投資ができておらず、縮小均衡（ギリ貧）となっている可能性が高い。

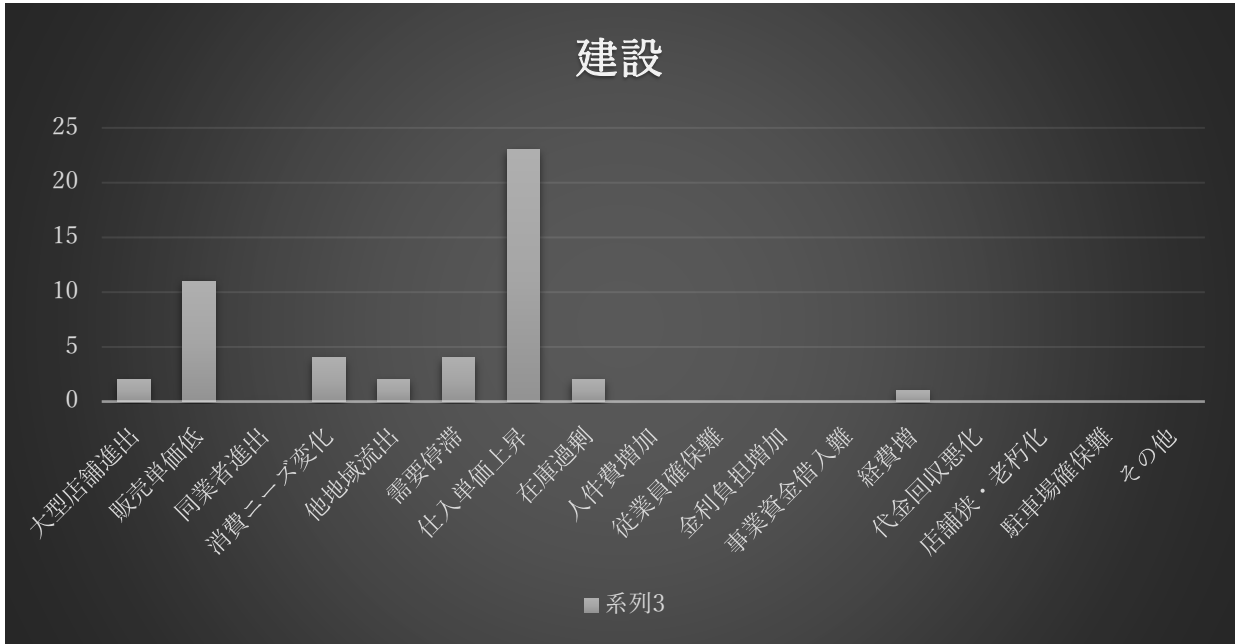
4. 3 現在直面している経営上の問題点 (1位: 2ポイント 2位: 1ポイント)



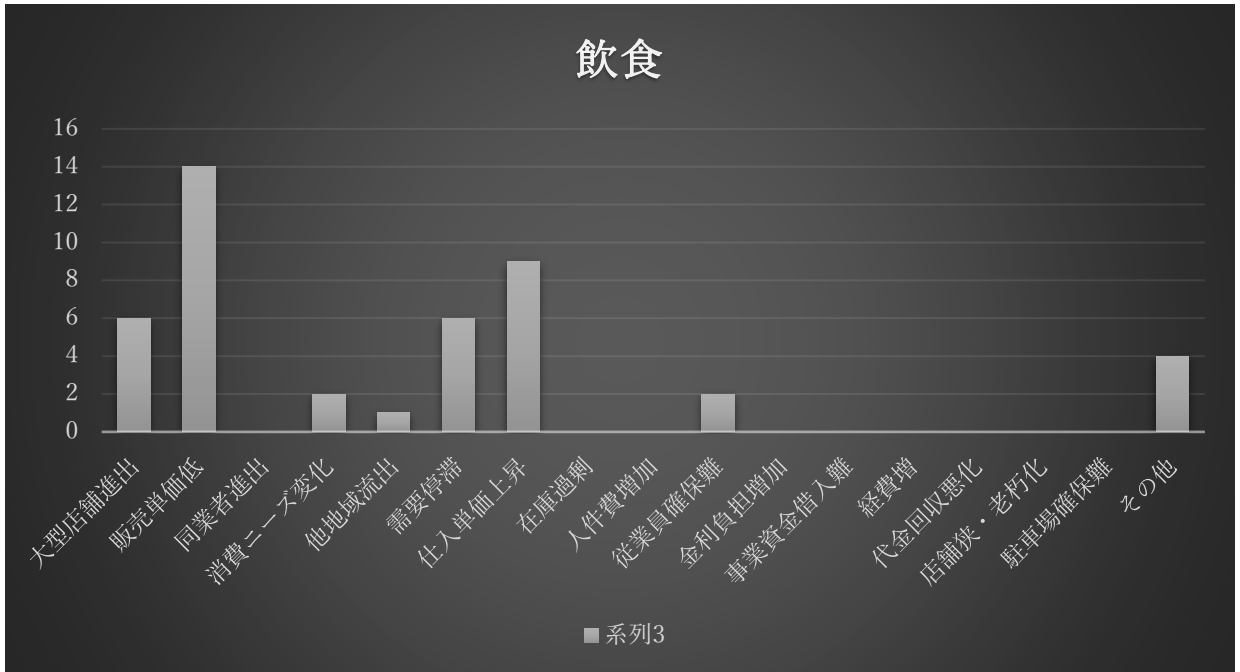
- 仕入単価上昇が最懸念事項。
- 大型店舗の進出と販売単価低迷も気になるところ
- 他地域流出も、多業種に比べて多い



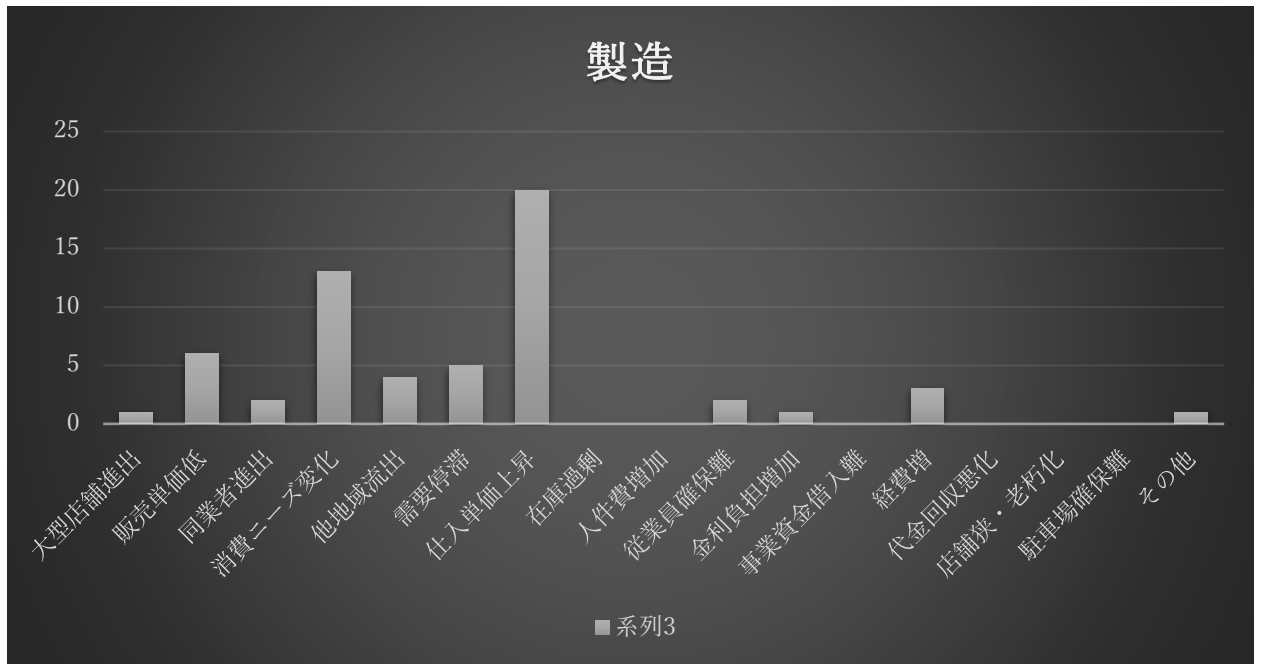
- 販売単価低迷が最も気になるところ
- 消費ニーズの変化も気になる



○仕入単価上昇と販売単価低迷が最もきになるところである



○大型店進出と販売単価低迷、仕入れ単価上昇と需要低迷がきになるところ



- 仕入単価上昇が最懸念事項
- 消費ニーズの変化も気になる
- 以下、販売単価低迷、需要停滞と続く。

【コメント】

- 仕入単価上昇が、どの業界でも3位以内に入っている。
- 卸・小売と飲食は、大型店舗進出の脅威を感じている。
- 製造とサービスは、顧客ニーズの変化（とその対応）を意識している。
- 販売単価低迷は、特にサービス・建設・飲食で強く意識されている。

【共通の傾向・課題】

- 顧客ニーズの把握・対応による販売単価の上昇と市場開拓
- 汎用材は、仕入方法の改善（協同仕入等）による単価抑制も考慮の余地あり。